

## 巻頭言

### センターレポート第20号によせて

総合情報処理センター長

黒田 英夫

kuroda@cis.nagasaki-u.ac.jp

長引く不況に、テロ事件が輪をかけた形になり、経済の先行きは極めて不透明な状況にあります。今回の不況は、IT産業の不況が原因と言われています。パソコンの普及がある程度進んでしまうと、それから先の伸びが鈍化するのはやむを得ないことですが、その伸び率の見通しを過度に期待し過ぎたため、過剰投資となった結果として、メモリに代表される半導体の売れ行きが悪くなったのが、最大の原因と考えられます。

しかし、IT（情報技術）そのものはあらゆる分野に導入されており、特にインターネットを仕事で利用している人達にとって、インターネットが急に使えなくなったら、仕事にならずパニック状態になります。長崎大学でも同様です。従って、大学としてのセキュリティ対策をどのようにすべきかは極めて重要な事柄です。長崎大学全体としてのセキュリティ対策について、現在、経理部の情報処理係と一緒に、またキャンパス情報ネットワークシステム運用専門委員会においても検討を進めております。

また、ネットワークはますます高速化・ブロードバンド化されていますが、ネットワーク社会は地方を活性化させるかそれともやはり一局集中化になるのかということも話題になることがあります。地方であっても何としても高速化・ブロードバンド化する必要があります。そのため、キャンパス内のネットワークをギガビットネットワーク化するとともに、キャンパス間においても専用で使用できるギガビットの光ファイバ専用回線を導入しました。このことにより、これまで伝送速度の低かったキャンパス間においても、通信放送機構が全国展開している研究用ギガビットネットワークを利用することが可能となりました。

さらに、情報ネットワークは距離と時間を克服するため、東京の会社ではなく、離島のSOHOでも同じように仕事ができます。しかし、このことは逆に言えば、敢えて長崎でなくても良いということにもなります。すなわち、どこであっても、他を差別化する工夫が必要であり、その工夫があって初めて離島でもできるということが言えるわけです。このような工夫は何も無いところから生まれることはなく、IT技術を十分熟練しておくことが重要です。このため、マルチメディアを利用した遠隔講義システムやビデオ・オン・デマンドサーバ、ノンリニア編集装置、教材提示装置、プロジェクタ、インフォメーションディスプレイシステムからなるマルチメディア情報伝達システム、そして、情報コンセントの無い場所でのネットワーク利用を可能とするポータブルモバイルアクセスシステムを導入しました。これらは高速キャンパス情報ネットワークシステムとして平成12年度補正予算で導入されたものです。

もちろん、研究・教育用計算機システムが、総合情報処理センターのもっとも基本となってい

ることは当然のことで、従来から計算機システムとして4年毎（今後は5年毎になりましたが）に更新しております。平成14年度から、全学教育のコアカリキュラムとして、情報処理入門が全学生必修科目として開講されることとなっており、これを可能とする計算機システムはますます重要なものとなります。

現在、文部科学省による遠山プランが提案され、長崎大学においても大幅な大学改革が検討されています。その中で総合情報処理センターが長崎大学に貢献するためには、学生が他大学に遜色のない環境でIT教育を受けられるシステム、教職員の方々が世界の研究者達にひけを取らないIT環境で研究を進めることができるシステムの実現が重要です。そのためには、常にその時代の最高速のネットワーク利用と、最先端のマルチメディアサービスを提供し続ける必要があります。上述したような各種システムの導入は、このような貢献策の一環として行っているものです。

総合情報処理センターの電子計算機システムが、今年3月に更新されました。従来の更新時期は1月でしたが、この時期は、卒業論文や修士論文の仕上げで学生諸君にとって計算機利用がもっとも多い時期であるため、2ヶ月ずらして3月の稼働としました。平成12年度補正予算による物はそれぞれ所定の時期に納入されました。本号は、これらの新システムの紹介をメインテーマとしております。

皆様の研究・教育利用に少しでもお役に立てればと思っております。